

動物學雜誌

(第三十五卷)

第四百十三號

大正十二年三月十五日發行

報文

日本産瓢蟲科の數屬に就きて

(大正十二年二月二日受領)

栗崎眞澄

一、ジウクホシテントウ屬(新稱)

*Anisosticta DUPONCHEL.**Anisosticta* DUP. JACQUEDUVAL, Gen. Col. d'Ent. Vol. IV, P. 281-282 (1868); CARWER, Knt. Vol. I, P. 541 (1916)

特性

形、ジウサンホシテントウ屬 *Hippodamia* に酷似す。頭部は前胸に深く陥入し複眼は大きな中庸にして橢圓形に膨起す。上唇及口部はナ、ホシテントウ屬 *Coccinella* に等し。下唇鬚の末節は長卵形を呈す。觸角は短小にして基部細し。前胸背は長さより幅大にして兩側強く灣曲して完全に縁取られ中央に於て幅最廣し。前縁角は稍著しく頭の前方に突出す。小楯板は中庸大にして三角形を呈す。翅鞘の形狀はジウサンホシテントウ屬に酷似す。前胸板には龍骨線を缺如す。中後兩脛節端には大なる各一本の先端刺を裝ひ爪は簡單なり。後基節間は前基節間より遙に狭小なり。各腿節端は體側に出づ。尚第一腹節

の腿節線は判然す。水邊の草上に棲息するも甚だ稀れなり。本屬に隸するもの本邦に左の一種あり。

ジウクホシテントウ

Anisosticta kobensis LEW.

LEWIS, Ann. Mag. Nat. Hist. P. 25 (1895).

栗崎—昆蟲世界第一九卷四四七頁(挿圖)(大正四年)。

本種は形狀ジウサンホシテントウ *Hippodamia B-punctata* L. に酷似するも遙に小形にして斑紋色澤共に後者と可成著しき差異あるを以て容易に區別することを得。

體は扁平長橢圓形にして光澤ある淡黄青色を呈す。

頭部。帶黄赤色にして其後縁前胸との接合部は黒色なるも中央は地色陥入して僅に連絡を保てり。複眼は黒色觸角は基部細く先端は紡錘狀に膨大す。長さ殆ど前胸の中央に達す。點刻は細微にして密なり。

胸部。前胸背には六個の大なる橢圓形の黒紋を裝ひ其内四個は前縁に他は後縁に沿ひて位置す。頭部と殆ど同

様に點刻せらる。小楯板は黒色にして前胸と同様なる點刻を裝ふ。

翅鞘。十九個の長橢圓形の黒紋を裝ひ内一個は小楯板上に位置す。各翅鞘上に於ける斑紋排列の様式は「 $1+2+3+4+5+6+7+8+9+10+11$ 」なり。點刻は大にして判然す。

體下。胸板は黒色なるも中胸の前側板並に其接觸部は青色なり。腹板は黒色なるも兩側及末端の二三節は黄褐色なり。但し個體によりて第四、五兩節の色は一定せずして或ものは地色を多く殘留し又或ものは全然他色によりて交代せらるるものあり。

脚。黄褐色なり。

大さ—長徑三耗、短徑二耗、高一・二耗。

産地。北海道(札幌)、本土(東京、横濱)。LEWIS氏に従へば新潟にも産す。

附記—LEWIS氏は本種を歐州産 *A. novendecimpunctata* L. と左の諸

點によりて區別し之を新種となせり。即ち

- 一、斑紋の後者より大なること。
- 一、色澤の後者より更に青白なること。
- 一、脚の後者より細長なること。
- 一、體の輪劃後者より細長なること。
- 一、點刻の後者より大にして判然せること。

等とす。然れども予は今日迄主要なる數種の文獻に就きて本種の調査を行ひたるも不幸にして後種との差異を發見することを得ず。記載は勿論其精巧なる圖とも全く一致するを見る。予は未だ *A. novendecimpunctata* の標品を検する機會を有せざるを以て俄に斷言すること得ざるも本種は別として彼我共通の他屬の諸種を比較するに、其多くは形狀、色澤、斑紋點刻等は必ずしも一致せず、概して歐州産は日本産に比して點刻斑

紋共に小形にして稀れに全く別種の觀を呈するものあり。殊にナナホシテントウ *Coccinella 7-punctata* L. に於ては歐州産の斑紋は本邦種の僅にまじりに過ぎざるもの多し。又脚の形狀に至りても亦同様の變異なしと云ふを保し難し。以上の理由によりて予は本種を歐州産 *A. novendecimpunctata* L. と全く同一種なりと信ずると共に左の如く訂正せんことを欲するものなり。

Anisosticta (kobensis) novendecimpunctata L.

一、ヒメカメノコラントウ屬(新稱)

Propylaea Mulsant.

Propylaea Muls.—DELLA BERRA, Rev. Coc. Ital. Pt. I, P. 213-214 (1913); KAWARA, Kaf. Vol. I, P. 558 (1916).

體は橢圓形にして背面少しく膨起す。觸角は細長にして第九節は倒立圓柱狀を呈し第十節は短かく球狀なり。末節の先端は圓く斜に切斷せらる。先端の球棍部は稍細長なり。全長前胸の基部に達す。中胸の前縁前胸板突起との接合部は灣入す。前胸の前縁は深く開掘せられ複眼の後縁を覆はず。二龍骨線を具ふ。翅鞘は細長にして前縁角は圓し。第一腹節の腿節線は半圓を形成す。後脛節端は判然せる刺を缺如す。爪は基齒を有し腿節端は體側に出づ。表面黄色にして黒紋を有し頗る變異性に富む。本邦に左の一種三變種を産す。

- 1 *P. congl. data* L.
- 2 " " var. *f-maculata* KURISAKI.
- 3 " " *inaequalis* (FABRICIUS).
- 4 " " *lineata* KURISAKI.

(一) ヒメカメノコテントウ

Propylea conglobata L.*Coenella conglobata* LINN., Syst. Nat. P. 366, 19 (1758).*Propylea conglobata* L. CURTIS, Rev. Coc. P. 157 (1874).

栗崎—昆蟲世界第一九卷四四七頁挿圖(A) (大正四年)

色黄赤にして黒色の斑紋を有する小形種にして斑紋の變異性に富む種類なり。

頭部。黄赤色にして後縁は黒色を呈し複眼を連結す。全面に細微なる點刻を密布す。複眼は黒色、觸角は赤褐色なり。

胸部。前胸背は黒色にして基部を除きたる周縁は淡黄赤色にして點刻は頭部と殆ど同様なり。小楯板は黒色にして極めて細微なる點刻を裝ふ。

翅鞘。淡黄赤色にして七個の黒紋を有し其前縁角に近き二紋は全く分離するも他は全部接合部の黒條と連絡して一見鱗甲様の紋理を構成す。點刻は前者より粗大なり。體下。黒色にして腹板の周縁は黄赤色を呈す。脚は淡黄赤色なり。

大さ—長徑四・四・五耗、短徑三—三・五耗、高二耗。

産地。全日本

附記—右は最普通なる型に就きて記載したるものにして屬の特性の項に就て述べたるが如く、本種の斑紋は頗る變異性に富むを以て翅鞘上の斑紋同一にして頭胸部の色彩異なるもの或は又全く之に相反するもの尠なからず。

(二) カタボシテントウ

Propylea conglobata L. var. *inequalis* (FABRICIUS.)*Catophora inequalis* FABRICIUS, Syst. Ent. P. 80 (1775).*Propylea conglobata* L. var. *inequalis* (FABR.)

栗崎—昆蟲世界第一九卷四四八頁挿圖(C) (大正四年)

形狀色澤大さ共に原種に等し。翅鞘上の七個の斑紋中基部の二紋を残して他は全部消失し只小楯板の後方の接合部に存する長方形の一紋僅に痕跡を止むるに過ぎず。接合部の黒縁は完全に残存す。

産地。全日本。

(三) ヨツボシヒメカメノコテントウ

Propylea conglobata L. var. *maculata* KURISAKI.

栗崎—昆蟲世界第一九卷四四八頁挿圖(B) (大正四年)

前種に酷似するも更に翅鞘端に二紋を有す。各翅鞘上に於ける其排列式は—十一なり。

産地。全日本。

(四) セスヂヒメカメノコテントウ

Propylea conglobata L. var. *lineata* KURISAKI.

栗崎—昆蟲世界第一九卷四四九頁挿圖(D) (大正四年)

翅鞘上の七全く消失して僅に接合部に黒條を止むるに過ぎず。

産地。全日本。

三、ナワオホテントウ屬(新稱)

Pseudosynonychia gen. nov.

模範種—ナワオホテントウ(改稱)

Synonychia japonica KURISAKI—昆蟲世界第一八卷四四三頁(大正四年及一九卷一四三頁第一圖(大正五年))

本屬名は一見オホテントウ屬 *Synonychia* (新稱) に酷

似せる大形種に適用す。蓋し前胸の構造特に圓味を帯びたる翅鞘の肩角並に前胸板上の龍骨線等は學術上新屬たるに充分の價値あるものと信す。

觸角。細長にして十一節より成り第二節は第三節より長大、第三節乃至第五節は細長にして第三節は第四又は第五節より少しく短かし。第四、五兩節は略同長にして第六節乃至第八節は次第に短縮し先端の三節は著しく擴大して長棍棒狀を呈す。第十節の長徑は短徑より小なり。末節は第九、十兩節を合したるものを殆ど同長にして頂端は僅かに圓味を帯ぶ。

胸部。前胸背の最廣部は基部に近く之より前方に至るに従ひて次第に狭小し兩側は殆ど一直線をなす。前縁は淺く切斷せらる。小楯板は極めて小形にして正三角形を呈す。前胸板突起上には判然せる二龍骨線を具ふ。中胸板の前縁の中央は「V」形に灣入し茲に前胸板突起の先端を收む。

翅鞘。外縁は圓く特に肩角に於て然りとす。反轉は著しからず。下面疊積部の兩縁はオホテントウ屬と異り翅鞘端の可成前方に於て相合す。

腹部。第一腹節の腿節線は簡單にして四分の一圓を形成す。

脚。後脛節の先端には強大なる二刺を具ふ。



Fig. 1
Antenna (magnified.)

本屬に隸するもの本邦に一種あり。

ナワオホテントウ

Pseudosynonychia japonica KURIHAKI.

本種は頗る大形にして一見オホテントウ *Synonychia grandis* THUNB. に酷似するも前胸の構造判然せる龍骨線、斑紋其他によりて容易に後者を區別することを得。

形半球狀にして橙黄色を呈し黒色の斑紋を有す。

頭部。橙黄乃至黄褐にして點刻は稍大なり。複眼は黒色觸角は黄褐なり。

胸部。オホテントウ *Synonychia grandis* THUNBERG. より長大にして前方に稍水平に突出し其後縁楯板に近く二個の橢圓の黒紋を横列す。點刻は頭部に比し細微にして密なり。

小楯板は橙黄色にして胸部と同様の點刻を裝ふ。

翅鞘。斑紋 排列オホテントウに酷似するを以て後種と誤認せられ易きも本種の斑紋は概して小形にして且つ接合部に沿へる二對明かに分離し而も後縁角の一對を缺如とするを以て容易に後者を識別することを得べし。尙ほ翅鞘外縁の反轉部の後者より遙に狭小にして殊に後縁に於て然りとす。各翅鞘上に於ける斑紋排列の様式は 10×10 なり。點刻は前胸背に於けるものより僅に小形なるに過ぎざるも遙に疎なり。體下は黒色なるも脚及腹板の周縁は表面と同色なり。

— 五・五耗。 長さ一一—一二耗、短徑一〇・五—一一耗、高五

産地。本土(岐阜、京都、大阪)、四國(香川、高知)、九州(福岡、鹿児島、宮崎)。

四、オホフタホシテントウ屬(新屬)

Osumia gen. nov.

模範種—オホフタホシテントウ(新種)

Osumia bimaculata sp. nov.

本屬名は二紋型のテントウムシ *Pygmaenatis arjridis* PALL. に類似せる

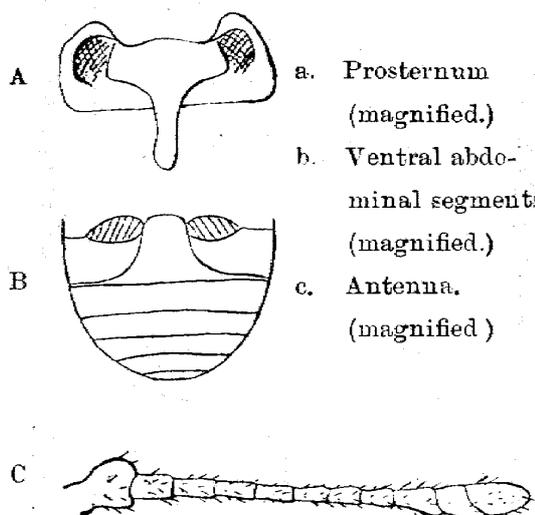
中庸大の一種に適用す。蓋し輪割後者より遙に圓く背面著しく隆起し殆ど半球状を呈す。

頭部。複眼の半を超へて前胸下に隠る。複眼は圓し。觸角は細長にして十一節より成り

第二節は長大にして圓柱形を呈す。第三節乃至第五節は細長にして殆ど同

長第八節は第六又は第七節より僅に短し。先端の三節は擴大して長棍棒を構成し末節の頂端は稍尖れり。

胸部。前胸板の兩側は淺く陥入し其前縁乃至外縁は狭く隆起す。龍骨上には判然せる二線を裝ふ。中胸板の前縁は中央に於て「V」形に灣入し茲に前胸板突起の先端



a. Prothorax (magnified.)
b. Ventral abdominal segments (magnified.)
c. Antenna. (magnified)

を收む。

翅鞘。頗る圓く背面は半弧状に膨起す。外縁は著しく反轉し下面疊積部は廣く斜なり。

腹部。第一腹節の腿節線は簡單にして該節の後縁に沿ひて殆ど外側迄走り1/4圓を形成す。

脚。後脛節は判然せる先端刺を缺く。爪は分裂せず。

オホフタホシテントウ

Osumia bimaculata sp. nov.

全體黑色にして翅鞘上に二大赤紋を有し、一見二紋型のテントウムシに類似するも後種より遙かに圓く殆ど半球状を呈し、斑紋も亦極めて大なるを以て容易に後者と識別することを得。

頭部。黑色にして稍大なる點刻を密布す。複眼は黑色觸角は赤褐色なり。

胸部。前胸背は黑色にして前縁角は殆ど四角形に黄白色を呈す。點刻は頭部と殆ど同様なり。小楯板は前胸背と略同大に點刻せらるるも判然せず。

翅鞘。黑色にして各翅鞘の中央に頗る大なる一個の赤色紋を裝ひ其外縁には僅に細き地色の縁を残すに過ぎず點刻は最粗大なり。

體下。全部黑色にして腹板の周縁のみ僅に黄褐色を呈す。

大きさ—長徑六・二耗、短徑六耗、高二耗。

産地。九州(大隅國ビロウ島)。

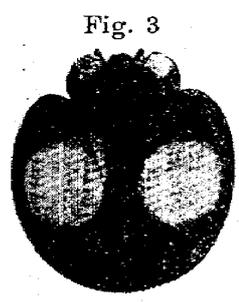


Fig. 3

附記—本種は大正六年七月田中教義氏の採集に係り、現に九州帝國大學農學部動物學教室に其數十頭を所藏す。

ジユウロクホシテントウ(新稱)

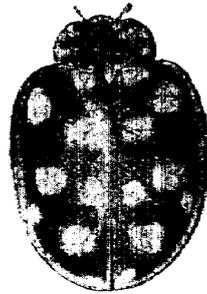
Halysia 16-guttata LINN.

形長橢圓、背面少しく膨起し色は黃褐にして翅鞘上に十六個の黃白紋を裝ふ。中形種に屬す。

頭部、複眼の中央を超へて前胸下に隱る。觸角は細長にして前胸の基部に達す。色は黃褐なり。複眼は黒色、點刻は粗大なり。

胸部。前胸背は扁平にして前縁は極めて僅に切斷せらる。最廣部は基部に近く在し前縁角は極めて圓し。兩側に各二個の黃

Fig. 4



白紋を有するも判然せず。點刻は頭部に於けるものより稍小形なり。小楯板は判然せる點刻を缺如す。

翅鞘。點刻は最粗大にして各翅鞘上に八個の黃白紋を裝ふ。其排列の様式は「 $1+1+1+1+2+1+1$ 」なり。

體下は全部黃褐にして前胸板突起上には龍骨線を缺く。

大さ—長徑六・五耗、短徑四耗、高二耗。

産地。北海道(釧路、石狩)

大正七年八月鈴木元次郎氏によりて二頭を採集せらる。

Descriptions of some interesting Coccinellids.

BY MASUMI KURISAKI.

(With 4 Text Figures.)

Pseudosymonjcha gen. nov.

Type: *Symonjcha japonica*, KURISAKI, *Konchu Sekai*, XVIII (1915), p. 343; XIX (1916), p. 143.

Antenna slender, consisting of eleven joints, of which the second joint is larger and longer than the following five. Third shorter than fourth and fifth which are of an almost equal length. Joints gradually becoming shorter from sixth to eighth. There terminal joints enlarged, as a whole of an elongated club-like shape; terminal joint rounded at apex, having a length nearly equal to ninth and tenth taken together.

Pronotum broadest near base, gradually becoming narrower forward, with lateral margins nearly straight and anterior margin slightly arched; scutellum extremely small, of a triangular shape; Prosternum characterised by two raised lines on keel, the end of which falls into a large V-shaped concavity of the mesosternum on the frontal margin.

Elytrum rounded on outer margin and especially at humeral angle, reflexed to a slight extent; rim of epipleural fold united with its fellow of opposite side farther anterior to apex.

Anterior tibia furnished with two stout thorns at apex; femoral line of first ventro-abdominal plate simple, slightly arched.

Osumia gen. nov.

(Text Fig. 2.)

This new genus is based upon a moderately large species which, though resembling the two spotted *Ptychanatis acyridis* PALL., has the body of an almost hemispherical shape.

Head covered by prothorax up to level of center of eye, which is circular; antenna slender, consisting of eleven joints, of which the second joint is of a cylindrical shape. Joints from third to fifth slender, of an almost equal length; eighth a little shorter than sixth and seventh; three terminal joints enlarged; terminal joint bluntly pointed.

Prosternum having two distinct raised lines on keel and lateral margins slightly concave; frontal and lateral margins forming a narrow raised ridge. Mesosternum presenting a V-shaped concavity on frontal margin, where the end of the prosternal process projects itself.

Elytrum almost circular, arched dorsally; epipleural fold broad, inclined to a certain degree.

Posterior tibia destitute of any thorn at apex; femoral line of first ventro-abdominal plate simply arched.

Osumia bimaculata sp. nov.

(Text Fig. 3)

Body circular in outline, convex dorsally, of a velvety black colour.

Head spotted irregularly; eye black; antenna reddish brown.

Pronotum not only presenting a large somewhat tetragonal yellowish white marking at anterior corner but blotched in much the same way as on head. Scutellum marked in similar manner to pronotum, though not so distinct.

Elytrum marked with a large circular reddish spot in center as well as by a narrow marginal zone of a somewhat lighter colour, strongly blotched.

Body black on ventral surface, except fulvous sides of ventro-abdominal plates.

Length 6.8 mm.

Hab.—Birojima near Osumi, Kyushu. Numerous specimens collected by Mr. NORIYOSHI TANAKA in July, 1917.

The present species seems to be nearly allied to *Ptychanatis acyridis* PALL., but may be distinguished from it by the extremely rounded body, the presence of two extremely large circular reddish markings and the reflexed margin of the elytrum.

Halysia sedecimnotata L.

(Text Fig. 4.)

Halysia sedecimnotata, L. WERSE, Best. Tab. Coc., 1879, p. 35; FOWLER, Col. Brit. Isl., III (1889), p. 166; GAGLBOUER, Kaf. Mitteleuropa, III (1899), p. 993; DELTA BEFFA, Rev. Coc. Ital. 1913, p. 190.

Body elongate-oval, nearly hemispherical, slightly convex on dorsal side, of a yellowish brown colour.

Head covered by prothorax, sparingly spotted; antenna yellowish brown, slender, reaching base of prothorax; eye black.

Prothorax slightly arched on frontal margin, broadest near base, marked with a white marginal band and some

spots smaller than on head; scutellum not distinctly blotched.

Plytrium with sixteen yellowish white markings, which is arranged in such a manner as 1+1+1+1+2+1+1; spots a great deal larger than on pronotum.

Body of a yellowish brown colour on ventral surface; prosternal process not characterised by any raised lines.

Length 6.5 mm.

Hab.—Kushiro, Hokkaido. Two examples obtained by Mr. MOROJRO SUZUKI in August, 1918.

This species is that which has hitherto been unrecorded from our territories.

吸蟲類 エキノストマト科

(大正十二年二月二日受領)

科の四新種に就て

醫學博士 安藤 亮

尾崎 佳正

緒言

著者は、廣島縣、岐阜縣及び滋賀縣下に於てシチラウネズニ *Mus norvegicus* ERXTREMA (= *M. dracumanus* L.) の腸より *Echinostoma* 三種並に *Echinoparyphium* 一種を得たり。

Echinostomida の吸蟲は哺乳類、爬虫類、魚類等よりも

発見されて居るが、其の大部分のものは鳥類を宿主とせるものにして鼠類より知られて居るものは、余等が得たるものと同一の宿主より *Echinostoma spiculato* DUT. の一種が知られて居るのみである。同種の記載詳ならず、且つ DUTARDY の記載せし所のものは、腹吸盤體の中央にありて雌生殖器の發育充分ならざる未成熟のものなる